

スウェーデン点描

石原 舜三 (鉱床部)

Shyunso ISHIHARA

昨年8月の下旬 国際鉱床学連合 (IAGOD) に参加するため スウェーデン北部を訪れた。これは4年に1回の鉱床学関係の最大の国際集会であり今回は第7回 ポスニア湾の最北部に面する小都市 (人口約4万人) ルレオ (Luleå) で開かれた。ルレオは有名なキルナ産鉄鉱石の積出し港 あるいは木材の集積地として知られ 工科系の大学も置かれている。

スウェーデンでは古くから鉱業が発達しており スカランなどの地質用語もこの地で生れている。ス

ウェーデンの民家は赤褐色を基調にペンキ塗装されているが これは硫化鉄の焼却から得られる“ベンガラ”を塗っているうちに 伝統となってしまったものさそうである。 鉱床学の教科書として最も著名な“Mineral Deposits”の著者 W. リンドグレン (米国)はこの地を先祖とする。

私達が訪れた時には ソ連原発事故による“長い夏”が終ろうとしていた。ここに掲げる写真はルレオ西方スウェーデン中北部で見聞したものである。



←口絵1

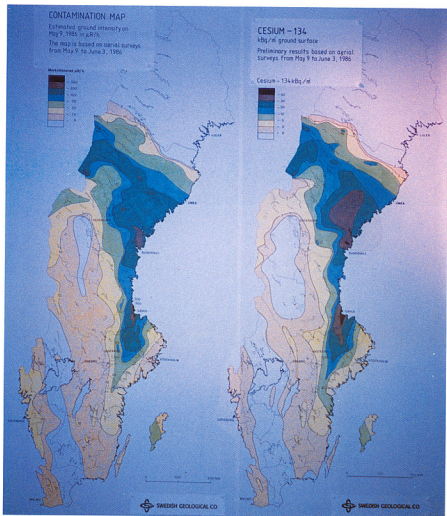
典型的なスウェーデンの森林風景。ボヨークルンド ウラン探鉱地にて。



↑口絵2 深夜に及ぶスウェーデンのたそがれ。アルビツヤウルにて。



↑口絵3 ルレオの中心地。清潔な町並に街頭チェスの組合せが面白い。

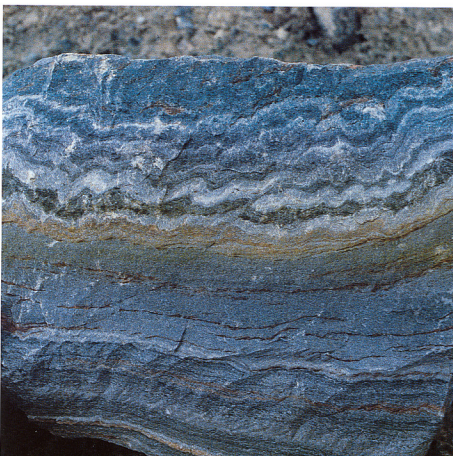


←口絵4

集会時のポスターセッションにみるゾ連チェルノブイリ原発事故（1986年4月26日）によるスウェーデンの汚染状況。ウラン鉱床探査班がデータ集めに活躍した。



↑口絵5 原生代の島弧火山活動の産物と思われるウデン塊状硫化物鉱床（右側褐色部）の下盤側。下盤岩石はスカルンを挟む絹雲母片岩（本文34頁 写真11の上盤側と比較）。



←口絵6

原生代の“鉄石英”。ウデン鉱床の上盤側には黒鉱鉱床の鉄石英帯に相当するものはないが、鉱体から数十mはなれて珪質岩がスカルン薄層と共に存在することがある（左右20cm）。



↑口絵7 アレプオダ Mo 探鉱地のペグマタイト-アブライト。ヨーロッパでは南部に Sn, W が 北部で Mo が卓越することは古くから知られており スウェーデンには Mo 産出地が多い。輝水鉛鉱は一般にアブライトやペグマタイトに伴われる。



↑口絵8 コタベルゲット Mo 探鉱地の輝水鉛鉱 (白色部) ここでは母岩がやや粗粒なアブライトである。